

授業改善推進プラン

第3学年

東大和市立第七小学校

<p>学習規律等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話す人に目と耳と心に向けて話を聞く。 ・家庭学習を確実にやる。(学年×10分) ・チャイム着席を徹底し、気持ちを切り替え集中して学習する。 ・苦手なことにも挑戦し、最後まで粘り強く取り組む。 		
	<p>今年度の課題 (育てたい資質・能力)</p>	<p>具体的な授業改善 (主体的・対話的で深い学びの視点を中心に)</p>	<p>評価</p>
<p>国語</p>	<p>○知識及び技能 学習した漢字を日常の文や文章の中で活用することに課題がある。当該学年に配当されている漢字を積極的に文や文章の中で活用できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して毎日の音読と漢字習得の学習に取り組む。 ・デジタルドリルを活用し、新出漢字の他、苦手な漢字の学習に繰り返し取り組ませるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、音読や漢字学習に継続的に取り組むことができ、習熟を図ることができた。 ・お昼の時間や小テストを活用した漢字の学習を繰り返し取り組ませたことで、漢字の確かな習得や文章力の向上につながった。
<p>算数</p>	<p>○思考力・判断力・表現力等 既習事項を生かして、問題解決することに苦手意識がある。数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いたり、既習事項を生かしたり、計算の仕方などを考察したりする力などを身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの診断結果を基に苦手分野の復習に取り組み、既習事項の習熟度を高める。 ・本時に関連する既習事項を導入段階で復習し、問題解決の手段にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キュビナなども活用し、苦手分野の復習に取り組ませることで、既習事項の習熟度を高めることができた。 ・既習事項を導入段階で復習することで、問題解決の手段にできるようになった。
<p>社会</p>	<p>○知識及び技能 地域における社会的事象の理解に課題がある。情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるとともに、知識の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学等の実体験や調べ学習で得た知識を、新聞や地図などの表す活動を行う。また、作業中や完成したものを互いに見合うことにより、知識の定着を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学等の実体験や、1人1台端末を活用した調べ学習・新聞作成を通して興味関心を高め、互いの成果物を見合うことで、学習内容を整理し知識の定着を図ることができた。
<p>理科</p>	<p>○学びに向かう力、人間性等 事象・現象に進んで関わるが、主体的に問題解決しようとすることに課題がある。既習事項を学習や生活に生かす力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や気付きがもてるよう事象との出会いを工夫し問題意識を高める。観察や実験等、実体験を通じて興味関心を高めると共に生活の中の事象を探る課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時の学習活動や、各実験の時の気づきをもとに次の問題を立てるという循環をつくることができた。疑問を追求する意識を高められた。
<p>体育</p>	<p>○思考力・判断力・表現力等 技能に差があり、ゲーム型の領域では活躍に差が出るという課題がある。ゲームの特性に応じて規則や作戦を工夫し互いに技能を高め合えるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦カード、振り返りカードを活用し、話し合いや振り返りの時間を確保する。また、自分たちの実態に合ったルールを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの合間に話し合いの時間を取ることで、自分たちの動きを思い出し課題を意識することができた。

